

## アフリカン・プリント

衣服製作用 染布(標本番号H223531、長さ/540cm 幅/120cm)製作年代 現代

吉本 忍 (よしもと しのぶ)

本館民族文化研究部

近・現代のアフリカでもつとも一般的なフ

アッショーン素材として普及している木綿のプリント更紗(プリント布)は、世界的にアフリカン・プリントの名で知られている。それらの布のルーツはインドネシアのロウケツ染めの布、ジャワ更紗である。アフリカの人たちのあいだで、アフリカン・プリントがファッショントとして取り込まれるようになつたのは一九世紀後半のこと。当時のアフリカン・プリントは、イギリスやオランダをはじめとするヨーロッパの国々で生産されていた。それらの多くは、ジャワ更紗のデザインを模倣したもので、同様の布は一九世紀初頭からインドネシアをはじめとする東南アジアに輸出されていた。

ジャワ更紗を模倣したアフリカ向けアフリカン・プリントの生産は、ヨーロッパに続いて

インドや日本でもおこなわれてきた。今日、アフリカン・プリントは、アフリカの国々でも

印度や日本でもおこなわれてきた。今日、アフリカン・プリントは、アフリカの国々でも

現代のアフリカン・プリントには、携帯電話をはじめとするさまざまな生活必需品をデザイントークンとして取り込んだ、アフリカン・プリントならではの独特のデザインが数多く見出される。しかし、その一方では伝統的なジャワ更紗を模倣したデザインも、今なおアフリカン・プリントの主要なデザインとしての命脈を保っている。

表紙写真は、こうしたアフリカン・プリントのひとつである。これは一八四六年創業のオランダのフリス社で、ローラーを使って布の両面にロウ置きをして染められたロウケツ染めのプリント更紗で、布の全面にあらわされた模様は、いずれもジャワ更紗の模様をデザイン・ソースとしている。

